

## 令和7年度第2回群馬県感染症発生動向調査委員会 議事録

日時:令和8年3月2日(月) 19時30分～20時30分

場所:群馬県衛生環境研究所 大会議室

参加者:委員9名、関係所属職員4名、事務局員6名 計19名

### 1 開会

### 2 あいさつ

略

### 3 委員紹介

略

### 4 議長選出

次のとおり選出された。

・議長 猿木 信裕 委員(群馬県衛生環境研究所長)

### 5 議事及び質疑・意見交換

事務局が資料に基づき説明を行った

(1)2025年の感染症発生動向調査について【資料1】

#### 結核菌の遺伝系統について

(委員)結核菌について、元々の国内株はどれか。

(事務局)手元に資料がないため後ほど回答したい。

(委員)(資料に VNTR の結果が)あげてあるだけでほとんどの人がよくわからないと思う。これ(結核菌 VNTR 解析)をやるメリットというのは、昔流行した株で、輸入感染症として結果が出ているという状況が把握できるという意味もある。あるいは、高齢者が昔治ったはずだったものが、また再活性化して暴れているのではないかとされたのが、意外と違う株で、また外からやってくるということがわかってきた。

(VNTR の解釈は)非常に重要なので、そういったことをやっぱり広報していかないと、皆さんがわかってくれないと思う。せっきゃくこれだけやっているの、それをどうやったらうまく臨床に活かせるかという話を少し考えていただきたい。

※後日に補足資料②のとおり委員あて回答

#### CRE について

(委員) 薬剤耐性菌(の届出)が減ってしまい、もう少しあった(把握できた)ほうがいい気もするが、これ(届出基準)はルールだから仕方ないと思う。

#### ARI(急性呼吸器感染症)について

(委員)ARI は色々調べていると思うが、10 か月くらいやって、ARI の中の(検出された)色々な菌やウイルスに何か意味はあったか。

(事務局)ARI の検出された病原体の内訳についてはこの後、資料 2 の方で詳しくお示しする。概ねインフルエンザの流行時期になるとインフルエンザの件数が増え、年間通じて、ライノウイルス、エンテロウイルスの検出が続いていた。

#### 結核菌の遺伝系統について

(委員)結核菌の遺伝系統はどういった方法で調べているのか。

(事務局)VNTR 解析をするにあたって、副産物的に、コピー数のパターンで分類している。

(委員)VNTR ということか。

(事務局)そのとおり。

(委員)国内では、もともと北京型が流行しているようだが、この資料を見て、それがどういうものになるのかは判断できない。ただ、全ゲノム検査が今、国内だけでなく西欧でも進められていて、その意味合いについて尋ねたところ、薬剤耐性が比較的早くわかる、結核治療が長くなるので、そこに関して検査を進めて、どんな系統のものか把握するという点で意味がある。

(議長)VNTR をやっているが、今、衛生環境研究所では NGS(次世代シーケンサー)を使って、遺伝子解析を進める方向で準備している。全部やるわけにはいかないが、ある程度必要な時には検査をして、どういうところから来たのか、VNTR だけだとわからないところが、NGS で調べると関連があるかないかが分かる。先ほど言った耐性菌のこともあるので、そういう検査もできるように準備していきたい。

(事務局)外国籍の方や、最近のものだと北京型の Modern タイプが多く、非北京型もある。高齢者だと、かつては祖先型、Ancient タイプが多い傾向はあった。群馬県の場合、外国籍の結核患者さんが多いという傾向もあるので、そういったところも(VNTR の系統割合に)影響しているのではないかと考えている。

#### (2) 急性呼吸器感染症病原体サーベイランスについて【資料 2】

##### 病原体の検出状況について

(委員)ARI 定点の病原体は、熱がある人(から分離されたもの)も含まれているのか。

(事務局)含まれている。

(委員)例えば、ライノ/エンテロは、色々なウイルスが混ざっているという意味か。

(事務局)ライノウイルスか、エンテロウイルスかまでの区別をつけていないというものになる。ライノウイルスか、エンテロウイルスのいずれかということになる。

(委員)(ライノウイルス/エンテロウイルスの項目に)色々なウイルスが混ざっているということか。

(事務局)そのとおり。ライノ(ウイルス)のABCのどれかかもしれないし、エンテロウイルスの何々型というのが、いたかもしれないということ。

(委員) 何となく一定数出ている、意味があるのかと見ている。あとは、季節性コロナはみられないのか。

(事務局) 新型コロナの検出は夏が多い、冬が多いといった季節性か。

(委員) 新型コロナではなく、季節性の方(ヒトコロナウイルス 229E、OC43 など)。フィルムアレイ(FilmArray®呼吸器パネル 2.1)だと検出できる。

(事務局) フィルムアレイだと項目の中には入っていると思う。

(委員) うち(当院)でも診たことがあるが、(SARS-CoV-2 以外のヒトコロナウイルスの動向も)わかるというよ  
いと思う。東京都はお金があるから色々(検査を)できるが、群馬県ではなかなか厳しいか。

(事務局) 現状は、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)のPCRのみとなっている。

(委員) 新型コロナとインフルエンザは、我々も測っており、肌感覚で(検出状況が)分かっているので、  
できれば ARI においては、それ以外の部分でももう少し我々にアピールできるような形でやってもらえると  
ありがたいと思う。

(事務局) 季節性のコロナ(ヒトコロナウイルス 229E、OC43 などの検査)については検査をできなくはない  
が、検出割合が少ないということで、(検査項目に)追加していない。随時、病原体については追加して  
いくということで、検査法については改めているので、アップデートできるかと思う。ライノ/エンテロについ  
てだが、実際には、出ているものはほとんどライノウイルスで、ほとんどは A か C である。ライノ/エンテロ  
という書き方をしているのは、中には区別ができないものがあるので、(資料では)こういった書き方にな  
っているということで、御理解いただければと思う。

(委員) ある程度(検出)できているのか。

(事務局) はい。

(議長) 去年の 4 月から ARI(病原体サーベイランス)が始まり、その検査が毎週きて、年間 1,000 件にな  
っている(検査している)。職員が増えていない中で、よくがんばってくれている。項目数を増やすことは  
できなくはないが、費用対効果を考えると、(多項目を)調べればわかるが、どこまでやるかというところだ  
と思う。ARI(病原体サーベイランス)の目的が、病原体不明の割合が増えてきたときに、新しい病原体、  
あるいは外国から(未知の病原体が)入ってきたのではないかとことを探知することが主な目的である。  
(検査項目は)細かくやればできるが、今のところうち(衛生環境研究所)にはフィルムアレイもないので、  
できる限りのことをやっているということで御理解いただきたいと思う。

### RS ウイルスの検出割合について

(委員) RSウイルスの検出割合の参考資料が 11 ページにあったが、群馬県の 898(検体)のうちの 39  
(検体)で 4%と、茨城県の 8%、東京都の 7%について、この数字だけではあるが、 $\chi^2$ 検定をしてみたら、  
有意差があるとのことなので、(検出割合が他県と)同様であるという結論でお話しされていたが、そこ  
は、慎重に扱うか、再検討いただけたらありがたいと思う。

(事務局) 確かに検定すると御指摘のとおりかと思うので、言い回しについては気をつけたい。

### (3) 感染症・疾病対策課からの報告について【資料3】

- ① ARI 病原体定点からの検体提出状況について
- ② 眼科定点および性感染症定点の指定状況について

#### 定点医療機関からの患者報告・病原体提出について

(議長) 定点医療機関の変更があったが、安定的に提出、報告していただいたところを優先的に(指定する)ということで、事業を継続しているわけだが、それなりの成果があったかと思う。病原体定点についても(定点医療機関へ)説明に行くなどして成果があったかと思う。まだ(検体数は)目標には達していないが、非常に安定的に事業が継続していると思うが、何か質問や御意見があったらお願いしたい。

(委員) 太田については猿木先生にも足を運んでいただき医療機関の方、院長先生にお話しいただき、病原体を出していただける御協力が少し前に進んだので、本当にありがとうございます。引き続きお願いしたい。また、ぜひ高崎市さんも力を入れていただけたら本当にありがたい。県内全域で力を入れたいと思うので、どうぞよろしくをお願いしたい。

(委員) 当院は定点になっているが、高崎市の(病原体の)提出が少ないようなので、戻って状況を確認したいと思う。

#### (4) その他

(議長) 最後に一人ずつ御発言をお願いしたい。

(委員) データとしてはいっぱいあるということなので、一般の医療機関にもどうやらうまく広報できるのかも少し工夫していただけるようお願いしたい。

(委員) 私は産婦人科医なので、感染症は特に毎日探知しているわけではないが、今度母子免疫におけるRSウイルスのワクチンも出て、最近RSウイルスに関してどういった病気なのか、どれくらい流行っているのかを興味深く見させていただいている。このようなデータが実臨床において、発生を抑えることに寄与できるように、臨床からも(感染症発生動向調査のデータを)見ていきたいので、引き続きよろしくお願いします。

(委員) いつも群馬県の取組を拝見して、人が増えていないというところで本当に大変だろうと思う。本当にお疲れ様です。今後ともよろしくお願いします。

(委員) 保健所では地域で感染症が発生したときに色々と(衛生環境研究所に)手を貸していただき、その結果がここに反映されている。非常に参考になるので引き続き御協力いただければと思う。

(委員) 日頃から参考にさせていただいている。保健所では麻しん(患者の発生)をみて、その後そちらの対策が主になっている。前橋市には感染症対策向上加算1を取っている病院が4つあるので、そのカンファレンスに保健所も出て、そこで「麻しんのときはこうしましょう」というようなガイダンス等を周知しているという状況。これからもよろしくお願いします。

(委員) 高崎市の場合、色々な検査を自前でできないので、衛研(衛生環境研究所)にお世話になっているので、先ほど(病原体)収集の話もあったが、また中で色々検討して、お互い協力していきたい。

(委員) 感染症について勉強させていただきありがとうございます。当課では食中毒(対応の主務課)ということで、2月に入り、ノロウイルスの食中毒が3件発生している。事業者に対して、手洗いや健康管理が大事だということ、衛生的な食品の取り扱いをするよう指導している。また、家庭での感染性胃腸炎もあると思うので、消費者向けにも注意喚起の情報をホームページから発信させていただいている。先

ほど食中毒の話をしたが、疫学調査というと、従来から食中毒のほかにレジオネラや、最近では、猿木先生からお話のあった SFTS 等も、以前は西日本で流行していたものが、最近では栃木にまで感染が近づいてきているということもあるので、これら食中毒やレジオネラ、SFTS というような疑い事例が生じた場合には、検査に関しては衛研に、そして医療機関の先生方や保健所の皆さんと連携を図りながら迅速に対応したいと思うので、引き続きどうぞよろしくお願いします。

(委員)皆様のお手元に配ったシールをぜひ御活用いただけたらと思う。今回、定点の医療機関へのお願いを保健所の皆さんがしてくださったときに、群馬県感染症・疾病対策課として、(検体数増加のために)何か努力しないのか、座っているだけか、と強い御指導をいただき、私達も努力しなければならないということで、急ピッチで作らせていただいたものになる。ぜひ先生方も感染症・疾病対策課にこのような取り組みをしてほしいということがあったら努力するので、これからもよろしくお願いします。

(議長)今日、色々と御意見もあり、何かあれば保健所、本課、衛研、医療機関で連携して対応していきたいと思うので、このネットワーク、情報共有がとても大事だと思うので、何かあれば遠慮しないでお声がけいただきたいと思う。